

戦略プロジェクト評価シート (H28 事中評価)

戦略プロジェクト名	いわて国体おもてなしプロジェクト		
主管部等名	市民部	部コード	040000
戦略プロジェクト統括マネージャー	市民部長 細川 恒	内線番号	2100

Step 1 戦略プロジェクトの全体像

1 戦略プロジェクトの概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

戦略プロジェクトへの設定理由	<p>28年度に開催する「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」を大成功させるため、市民総参加で取り組むことが本市の重要課題となっている。</p> <p>また、人口減少や少子高齢化社会の進行に伴い医療費や介護費用の増大など、様々な問題が顕在化してきていることから、この大会を機に、市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすための取組や交流人口の増加に取り組むことが重要であるため。</p>
戦略プロジェクトの取組内容	<p>「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」に来盛する方々を“おもてなしの心”で温かく迎え、盛岡の魅力を全国に発信するとともに、ボランティアや市民協働による組織等が一体となる取組を推進し、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」を市民総参加によって成功へと導く。</p> <p>また、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進するため、国体の成功に向けた取組による財産を継承し、次の事項に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民のスポーツへの関心の向上を図り、スポーツを通じた健康作りを進める。 スポーツツーリズムを推進することにより盛岡及び盛岡広域圏の魅力を発信し、交流人口の増加を促進させる。
重点取組期間	平成 27 年度 ～ 平成 28 年度
期待する効果	市民総参加により、大会を成功させ、盛岡の魅力にあふれた元気なまちになる
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	すべての市民と来盛者
意図 (対象をどのようにしたいのか)	<p>すべての市民が、国体成功への取組を通じてスポーツの魅力を再認識し、スポーツを通じて健康で豊かな生活を楽しむことができる。</p> <p>また、選手、役員をはじめとする来盛者が、国体を契機に盛岡の魅力に触れ、盛岡ファンとなる。</p>
目標指標	ボランティア登録者数2,000人 (28年4月1日現在)

Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績 (評価 時点)	28年度 目標	29年度 目標
A ボランティア登録者数(↑)	人	—	148	2,016	2,096	2,000	
B まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合(↑)	%	31.1	28.8	28.9	—	47	(50)
C 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」(↑)	位	74	58	63	—	54	(53)

Step 3 戦略プロジェクトの進捗状況

本プロジェクトは、「大会の成功及びその財産の継承」を目的としている。

また、平成34年度までを計画期間とする盛岡市スポーツ推進計画の基本的施策は、(1) スポーツをする環境づくり、(2) スポーツを支える環境づくり及び(3) 2016「希望郷いわて国体・いわて大会」への取組としている。

したがって、本プロジェクトは、大会の成功に向けた取組とともに、大会開催によりハード、ソフト両面でのスポーツ環境の向上が図られ、「する」環境づくり、「支える」環境づくりを進め、その財産を次世代に継承していくという使命がある。

このうち、大会の成功に向けた具体的な取組については、

- ア 国体会場となる施設の整備・改修事業の実施（アイスリンク（現みちのくコココーラボトリングリンク）、太田テニスコートの改修等）
- イ ボランティア登録者の募集（平成28年4月1日時点で、2,000人を越える登録となり、目標達成）
- ウ 「いわて国体を通じた食の魅力発信」として、各競技会場での地域食材の「ふるまい」の実施並びにトップセールス及びPRの充実（商談会などの異業種交流や地産地消に取り組む飲食店等の支援等）
- エ 盛岡駅東口の自動車交通円滑化のためタクシープール側の駅前広場レイアウト改善（平成28年1月1日に供用開始）
- オ バリアフリー化等を目指した盛岡駅東口及び盛岡駅西口バス乗り場へのエレベーターの設置（盛岡駅東口エレベーター：平成28年1月13日に供用開始、盛岡駅西口バス乗り場エレベーター：平成28年4月1日に供用開始）

などが挙げられるが、すべて順調に進められており、大会開催までに事業が完了する見込みとなっている。

なお、スポーツ・パル制度の拡大や盛岡広域圏でのスポーツツーリズム推進については、本プロジェクトと並行して取り組んでおり、国体終了後速やかにスポーツ推進計画に掲げる目標達成に向けた取組に移行できるよう進めている。

Step 4 市民ニーズの把握

本プロジェクトについては、「広げよう感動。伝えよう感謝」をスローガンとする全県的な取組であり、国体成功に向けた市民ニーズの把握については、開催決定以降、特に行っていない。

しかし、国体開催による財産の継承については、スポーツ推進計画の目標達成に向けた取組の中で、十分に市民ニーズを把握しながら進めていく必要があり、国体ボランティア登録者を中核としたスポーツ・パル制度を進める中で、市民ニーズの把握が容易になっていくものと期待している。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 戦略プロジェクトの中で特に成果をあげた点

本プロジェクトの目的は、大会の成功及びその財産の継承であり、現段階では冬季大会の成功、ボランティアの登録者数の目標達成等、次のものが挙げられる。

ア 冬季大会の成功

スケート競技会及びアイスホッケー競技会の岩手県の順位は、天皇杯8位と1988年以降最高の成績を収めた。また、全国各地から盛岡を訪れた多くの方々に盛岡の魅力を伝えることができた。

イ 国体ボランティアの登録者数の目標達成

目標の2千人に対して、目標数を上回る2,096人の登録者数となっている。

ウ 国体会場となる施設の整備・改修

長年の懸案であった通年型スケートリンクであるアイスリンク（現みちのくコココーラボトリングリンク）の新設により、冬季大会が円滑に実施されたほか、国体開催を契機に、太田テニスコート、盛岡タカヤアリーナの整備・改修などが推進されたことにより、各種大会参加者や本市競技団体から高い評価を得た。

(2) 成果をあげた要因

ア 冬季大会の成功

- ・ 希望郷いわて国体冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会において、多くの市民県民が応援した。また、盛岡駅前の整備、地域食材を競技会場や競技団体主催のレセプションなどでふるまうなど、盛岡らしいおもてなしの心でお迎えした。
- ・ おもてなしに使用する地域食材を積極的に活用するため、生産者と事業者との交流を促進する商談会を盛岡広域振興局と共催したほか、国体推進局などの関係課と連携した。

イ 国体ボランティアの登録者数の目標達成

競技別リハーサル大会及び希望郷いわて国体冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会を通じ、大会運営に直接関わることができるボランティアへの関心が高まったことが考えられるほか、企業や各学校に登録の勧誘を積極的に展開し、グループ登録の増加が図られた。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

ア スポーツ・パル制度への取組

スポーツ・パル制度の周知及び会員数の拡大が図られていないことから取組方法について見直しを行う。

イ 国体終了後の施設の整備・改修

国体終了後に床改修工事を実施する盛岡タカヤアリーナは、プロバスケットボールBリーグに参入する岩手ビッグブルズのホームアリーナとして使用することとしているが、ホームアリーナとして必要になる施設整備・改修、備品購入についての検討が必要になっている。

ウ 国体終了後の地域食材の活用推進

一過性のものとならないように、地産地消の推進と地域食材の活用を通じた都市ブランド力の向上を図る必要がある。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 戦略プロジェクトにおける現状の問題点（特に改善を急ぐべき点）

このプロジェクトは、国体が成功裏に終えた時点で終了するものだが、国体終了後の遺産を継承するための仕組としての組織がないことが問題である。

(2) 現状の問題点が生じている原因

盛岡広域の市町は、現在、県主導の下、国体開催に傾注してそれぞれが取り組んでおり、国体の遺産を継承するための連携した組織作りについては、国体終了後でなければ進められないため。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

盛岡広域圏が連携して、遺産を継承する組織の設立が必要である。

3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

(1) 上記1(3) 関係

ア スポーツ・パル制度への取組

- ・ 国体ボランティアへ制度登録を勧奨する。
- ・ プロスポーツ会場や市主催のスポーツイベント等で制度及び登録を周知する。
- ・ 競技団体との情報共有及び競技団体の会員へ制度の情報を拡散する。
- ・ ボランティア参加等により取得した交換グッズを拡大する。

イ 国体終了後の施設の整備・改修

プロスポーツ興行に必要な改修について関係者との意見交換を行い検討する。

ウ 国体終了後の地域食材の活用推進

「希望郷いわて国体・いわて大会」を契機とした「盛岡美味もんレストラン」の認定制度の取組等を継続する。

(2) 上記2(3) 関係

国体終了後の平成29年1月に盛岡広域圏8市町で構成する（仮称）盛岡広域スポーツコミッションを設置することになっており、この組織を速やかに立ち上げ、「スポーツツーリズム」、「競技力の維持・向上」及び「スポーツ環境の整備」を図るため、次の事項に取り

組む。

- ア 2020東京オリンピック・パラリンピック等の事前合宿の誘致
- イ スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致
- ウ プロスポーツとの連携による地域活性化の促進
- エ スポーツ施設の情報発信
- オ スポーツ施設の共有化・適正配置の検討
- カ スポーツを通じた広域連携施策の調査・研究